令和6年度 学習分析事業 改善計画シート 三原市立中之町小学校

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均(全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
			04	44	94	04	工件
国語	前年度結果 偏差値平均		50	53.4	52.1	49.8	51.33
	本年度結果 偏差値平均	43.5	47.7	48.1	50.6	47.1	47.4
算数	前年度結果 偏差値平均		46.9	54.5	51.8	53.8	51.75
	本年度結果 偏差値平均	45.2	46.6	51.3	49.9	48.8	48.36
理科	前年度結果 偏差値平均				51.6	49.8	50.7
	本年度結果 偏差値平均			49.8	50.3	46.6	48.9
全体	前年度結果 偏差値平均		48.5	54	51.8	51.1	51.35
	本年度結果 偏差値平均	44.4	47.1	49.7	50.1	47.5	47.76

②全国学力·学習状況調査 正答率平均(第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果	72	71
(対県比)	(104.3)	(110.9)
本年度結果	64	62
(対県比)	(92.7)	(96.8)

2 令和5年度について

(1)調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)

- ●2年「文章を読み感想などを伝え合う」41.7%, 3年「話題を決め、伝える内容を 算数科 選ぶこと」71.4%、文や文章を正しく書くこと43.7%、「目的に応じて工夫して書く」 31.8%,「情報を選び構成を考えて書く」34.2%など文章の読み取り,読み取った 内容に応じて文章を書くことに課題がある。
- ●3年「時間の単位」82.1%、2年「絵や図を用いた数量の表現」56.9%など図形 領域、時刻の問題などに課題がある。
- ●4年「天気と気温・雨水と地面」41.3%, 6年「振り子の運動とそのきまり」60.4% に課題が見られる。

【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)

- ●テープを切ってできる図形から角の大きさについて考える問題の意味が理解できていない。 正三角形の意味や性質について問われていることが理解できていない。(31.3%)
- ●三角形の面積について、大小関係を判断できていない。高さが同じ三角形で、底辺と面積の 関係をもとに、面積の大小関係を判断した理由を説明する問題の記述ができていない。 (37.6%)
- ●(2位数)÷(1位数)の筆算において図を基に各段階の商の意味を理解できていない。 (50.0%)

国語科

- ●図表やグラフなどを用いて自分の考えを書き表す問題で、問題点や解決方法を工夫して書く ことができていない。(36.4%)
- ●インタビューの様子が書かれている文章を読んで、話し手が何を伝えようとしているか内容を 理解したり、質問をした理由を捉えたりすることができていない。(66.7%)

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標	₹•取組		
重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組(どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 〇全教諭で「問いの解決」を意識した授業づくりを 行う。 〇全教諭がICTを活用した個に適した授業づくりを 行う。 〇全学級の授業において、導入での問題提示や必 要感のある課題提示を工夫する。 〇全学級の授業において、児童の達成感を感じさ せる場面を設定する。	と共有により、日々の授業を学年部で見合い意見交流することで授業力の向上を目指す、作用狂民業観察) ②授業研究及び協議会による目指す授業を共有し、「問い」から「まとめ・振り 返りまでの授業展開を改善する(課題とまとめの整合性はどうか?、4分分内 に適用題と思り返りまで実施し児童の理解を手師できたか。 ③チャレンジタイムの充実(内容はNFT及び全国学力・学習状況調査の分析 結果に基づき予野から抽出 ④1月に標準学力調査を実施し、課題分析のもと指導の不十分な分野を明ら いする、それもとに、3月に改善上だ場。教入直しを行う。(国・等・理) ⑤理料の授業改善とともに学習内容を定着させる。(専科教諭と担任との連 携を行い、補充問題等に定期的に取り組ませる。) ⑥ICTの実践を流及び校内研修を実施する。(クラスルーム上での交流も含	業観察月1回以上) (2年間全員1回授業実施 毎月アンケート実施 ③週に3回(標準学力テストを参考 に問題作成) 単元末テストから苦手な分野の分析・教え直し一再テスト @1月初旬にテスト(標準学テ)実施 一課題分析一授業改善による教え 直し一再テスト 等元末と (8月1回以上	(肯定的回答が80%以上) ・標準学力調査(全国平均以上) ・「クロームブック活用推進プロジェクト」 の達成率90%以上
【学級・普雷集団づり】 の全学級において、学習ルール、環境整備を徹底できるようにする。 う全学級において、一人一人の役割を明確にし、居場所を 実感できる場の設定や掲示を工夫する。 の全学級において、二次支援や三次支援にいる児童への 手立てや学級での取租を交流する。 の全学級で学校行事・児童会行事において目標を決めて 取り組む。	④全体研修においての改善計画の実施についての交流 ⑤学級づくりに関わる校内研修の実施	①6月 ②7月 ③週1回 ④8月 ⑤月1回 ⑥7月1回以上	-Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上) -Q-U2回目の一次支援の数値 (全学級で70%以上) -児童会による学校行事に対する振り返り(全学級で肯定的評価90%)

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて)

- ●国語科では、「話すこと・聞くこと」に課題がある。
- ●算数科では、「測定・データの活用」に課題がある。
- ●理科では、「粒子」の領域に課題がある。

(全国学力・学習状況調査をうけて)

- ●国語科・ブロップのでは「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる」問題1二(2)(33.3)、「事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫 することができる」問題2二(45.2)、「日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる」問題1一(47.6)に課題があった。自分の考えを伝えるときの書き表し方の工夫、「書くこと」について の課題が大きい。
- ●算数科では「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」問題4三(19.0)、「球の直径と立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方 を式に表すことができる」問題3(3)(31.0)、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述できる」問題4(3)(50.0)に課題があった。特に、わけを式や言葉で書くことに課題が大き

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

O					
重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期			
【学力向上ついて】					
・学びの自己評価	①全学年全教科等でのR80の実施(必須)	○単元末国語・算数テスト「思考・判断・表現」 低学年90%、高学年70%以上(学期末)			
・情報と情報との関連付け	②下線等、文章の内容を的確に読み取るための手立て	□ 世子年30%、同子年70%以上(子朔木) □ 単元末算数テスト「知識・技能」			
・四則計算の確実な定着	③帯タイム(チャレンジ)を活用した反復学習	低学年90%、高学年85%以上(各学期末)			
・「話す・聞く」力の育成	④集会や生活、授業等での場面で聞き取った内容を確認する場の設定	○話す・聞くのテスト 80%以上(11月·2月実施) 			
【学級・学習集団づくりについて】					
・学習規律・学習環境の整備	①学習規律(学習のきまり)について定期的な振り返りの実施	○児童アンケートで「学習のきまりが守れている」の肯 定的回答が80%以上(各学期末)			
・支持的風土の醸成	②学校行事・児童会行事・学級活動において、目標達成のために手立てを設定し、 頑張りを認める場の設定	OQ-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回 以上)			